

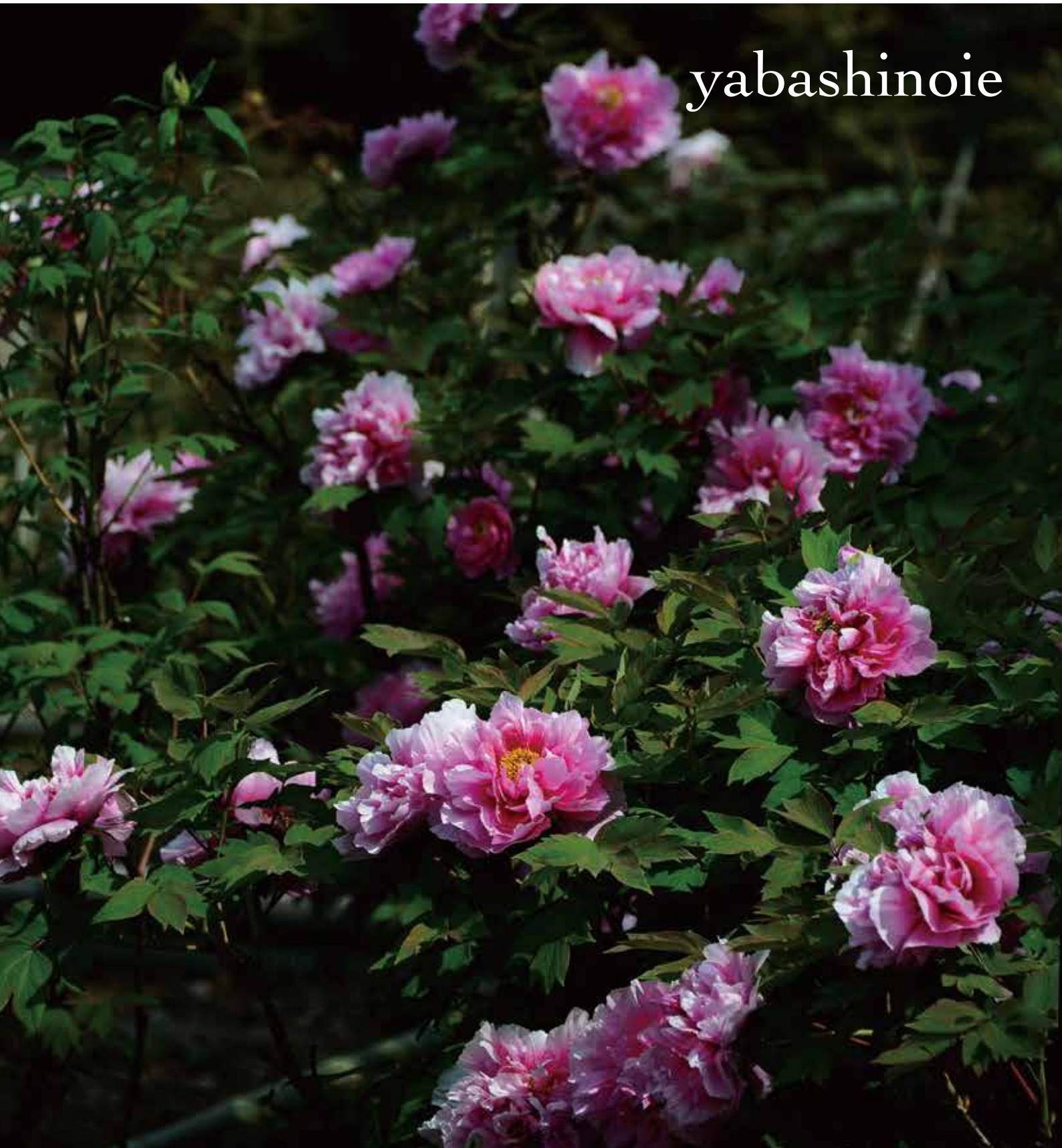
心豊かな暮らし

縁

EN

VOL. 46
SPRING 2018

yabashinoie





Sunnyside International



P.1-2 「サニーサイドインターナショナルスクール」校舎

心豊かな暮らし

縁
EN

VOL.46 SPRING 2018

contents

P 3 >>

Sunnyside International School

日本初の国際バカロレア正式認定校 岐阜市

P 9 >>

ベトナムの技術力 漆絵 tranh sơn mài (チャインソンマイ)

画家 Lê Văn Thìn (レー・バン・ティン)

P 11 >>

矢橋の注文住宅

Yabashinoie Product line-up

P 13 >>

矢橋の街づくり 「RESIDENCE 昼飯」

麗しき住環境の創造

P 14 >>

匠の技

建築家監修による 注文住宅「匠」
再生という選択 リノベーション「甦」

連載

中山道赤坂つれづれの記 文/故 清水春一
谷木因(五)

史跡 赤坂お茶屋屋敷 牡丹園

(表紙写真)

当園の牡丹は、明治・大正・昭和にかけて故矢橋龍吉翁が史跡赤坂お茶屋屋敷内の花畑に、自然を愛し、種々の優雅な草木とともに昔ながらの有機農法のもと丹精込めて栽培してきたものです。

4～5月上旬、約800株の牡丹が見頃を迎えます。また園内には、牡丹だけではなく、黄金柏や御衣黄など様々な木々や花があり、新緑や紅葉、冬に咲く寒牡丹など一年を通して自然の美しさを感じていただくことができます。門は、一年中開け放しにしております。心おきなくご来園いただき、四季の移ろいを感じてください。(見頃は目安であり天候等により異なります)

所在地: 〒503-2213 岐阜県大垣市赤坂町3421-1



1



2

※国際バカロレアとは
International Baccalaureate (IB)
1968年スイス・ジュネーブに設立されたインター
ナショナルバカロレア機構 (IBS) によって提供される
国際的な教育プログラムのこと。

国際バカロレア初等教育プログラム
Primary Years Programme (PYP)
PYPは、教育を通してより良い世界を創造するという
バカロレアの理念を実現するために必要な「3歳～12歳
までの教育のあり方・学校のあり方」を「フレームワーク」
として示しており、その基準となるおよそ70に及ぶ評価
項目をクリアしている学校のみが正式認定校となることが
出来る。
サニーサイドインターナショナルスクールは、2016年に
全国で初めて国際バカロレアワールドスクールPYP
認定校となった。

右／明るい陽の光が降り注ぐ開放的なデッキテラスが、教室と
外をつなぐ 1／敷地内で作られる温かなランチは美味しいと
大好評 2／絵本を友達と一緒に熱心に読む様子

「教える」のではなく、
「子どもが自らの興味関心で学んでいく」
その環境をつくっていくことが何よりも大切。

この度、数年ぶりの校舎新築事業を、平素、学園理事
としてご指導いただいている矢橋さんにご相談した時は、
実際、恥ずかしいほどの予算しか立てられず、そもそも受
けてもらえるのかとドキドキしていましたが、矢橋さんは
「そんな事よりまずは、生徒の為に出来る限り良いものを
作る事、人工素材ではなく、天然の木質に触れられる環境
が絶対にいいよ！」とおっしゃって下さいました。

建築現場の皆さんはどなたも矢橋社長の思いをしっかり
と理解されており、最初から最後まで本当に妥協のない
作業をしていただき、また、「生徒たちの学び舎だから」と、
途中、子ども達に釘打ちなどをさせていただく機会を作っ
ていただいたり、私たちと同じ目線で細部に渡りご配慮いた
だきました。そういった半年に渡る現場職員の方との深い交流
の中で、完成したのがこの新校舎です。

暖かく、また木の香り漂う教室は、子ども達も大好き
で、改めて天然素材で作る建物がこれだけ違うものかと
驚いています。

決して派手派手しくする必要
はなく、大切なのは本質的な
こころ。まさにその理念を
私も教育現場で自分に言い
聞かせながら、今度もこの素
晴らしい学び舎で子ども達と
たくさんの思い出を作ってい
きたいです。



園長 渡辺寿之

Sunnyside International School

※
日本初の国際バカロレアPYP正式認定校



木のいいにおいがする！

幼い頃から自然素材に触れることは、健康面に良いというだけでなく、感受性が育ち好奇心や探究心が
生まれて来る。
岐阜市にあるサニーサイドインターナショナルスクールでは、子どもたちの五感を働かせ、自ら考え、
学びを深めていけるような環境づくりを行っている。日本初の国際バカロレアPYP正式認定校であり、
教育プログラムに共感し、県外から通う子も。
今回、敷地内の一部の建て替えにより、新しい校舎が完成した。
子どもたちが部屋へ入ると、「木のいいにおいがする！」と思い思いに駆け回る。
みんなの思いがたくさん詰まった校舎。建築の工程をみんなで学び、建築中に釘打ち体験も行った。
ただ完成を待つだけでなく、ひとりひとりが参加することで、より一層愛着がわいてくる。
ここにも、答えや正解を与えるのではなく、そこにたどり着くまでのプロセスを大切にしている教育方針が
伺える。



自然のやさしい陽が差し
心地よい風がゆつたりと流れる
斬新なデザインの中に
使いやすさを大切にした
開放的な空間

自然光をたっぷりと取り入れ、できる限り人工の照明に頼らない工夫が。内装の仕上げには木をふんだんに使用し、床をはじめとするその木部には自然塗料を塗っている。また素材そのものの良さを生かすため、ほとんど着色はしていない。手洗い場やトイレなどは、子どもたちが使いやすい高さに。出入口で手を挟まない様にするなど、この校舎は、安全に安心して使用できるような設計となっている。

1／基礎配筋工事 2／土台伏せ工事 3・4・5／建方 6・7／釘打ち体験説明 8・9／生徒達による釘打ち体験 10／天然成分の蜜ろうワックスがけ 11／竣工セレモニー

12／自然光を取り入れる天窗 13／子ども達が学ぶ部屋 14／玄関と事務室 15／子どもが使いやすい高さの手洗い 16／手を挟まない工夫がされた出入口 17／デッキテラスから校庭を見る 18・19／傾斜を取り入れた斬新な外観



みんなの校舎がついに完成！



「探求型学習」
答えにたどり着く過程にこそ学びがある

8



生徒のみなさんからおれのメッセージをいただきました！

9

1／子ども達が学ぶ様子 2／IBの学習者像 3／壁に飾られた子ども達の作品 4／話し合いの様子 5／文房具などのしまい方、使い方はみんなでルールを決め、シェアして使用する 6・7／専門の講師と行うZUMBA(ズンバ)の時間は思い切り身体を動かす 8／学年ごとにグループワークを行う高学年クラスの様子 9／絵本を楽しむ子ども達。窓際は、自分たちで使用方法を決めて自由に使って欲しいという思いで設計したスペース

幼い子どもを持つ親として、学校を見学させていただきました。子ども達が主体となって自主的に活動をしたり、問題発生時にはみんなで解決の糸口を探す様子に感激しました。ここで学んだ子ども達が、力強く日本の未来を担っていく事でしょう。

天然素材の壁には手作りの掲示物が飾られており、教室は賑やかな雰囲気。掲示物の一つ、「IBの学習者像」に書かれていた「振り返りができる人、どうしたらもっと良くなるのか考える人」、「人の考えを受け入れる人」といった内容が印象的で、IBが大切にしている理念は、大人の私が見ても、改めて大切にしたいことだと感じました。先生方も情熱的で、自分の子どもにもこの教育を受けさせたいと思う、素晴らしい学校だと感じました。

矢橋ホールディングス株式会社 広報部 北川 陽子

弊社のお施主様の多くが、子育て世代の方々です。まだ産まれたばかりのお子様から小学校、中学校、高校と、人生の中で最も忙しい時期かも知れません。まず、お子様の社会への第一歩は幼稚園に行くことから始まります。今回取材させて頂いた、お施主様のサニーサイドインターナショナル様は園長の渡辺先生と親しくさせて頂いております事から、校舎建設というかたちで、幼稚園に通うお子様が心豊かに育つ場を造らせて頂きました。

渡辺先生は、自らのご決断で海外留学され、ドイツ語・イタリア語・英語を身につけられました。海外で悪戦苦闘されながら児童教育の信念を築いて来られました。少子高齢化の中、幼稚園の経営は決して楽ではありません。経営環境が厳しい中で、先生方に対して大きな投資をされて、国際バカロレア (IB) の幼稚園として、日本で初めて認定されました。IBは、世界の複雑さを理解して対処し、未来へ責任ある行動をとるためのスキルを持った生徒を育成します。さらに、国際的に通用する大学入学資格を与え、大学進学ルートを確認することを目的として1968年に設置された、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムです。現在、認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通のIB試験、IB資格の授与等を実施しています。

私はIB認定校になる前に、サニーサイドインターナショナル幼稚園を訪問させて頂きました。その折には、渡辺先生の志を受け継いだ日本人の先生方をはじめ海外の先生も一体となって国際教育の実現に向けて真摯に取り組んでおられる姿を拝見しました。このような方々がおられる環境であれば、ポジティブに自ら生きていける子どもが育つと確信致しました。

渡辺先生も日本の先駆けとして、多くのご苦勞を背負いながらも、揺らぐことの無い信念を貫き、IB認定校として正式に認められました。次は幼稚園から小学校までの一貫教育を目指して取り組んでおられます。先駆けという事は、前例も評価も無く、多くのリスクと、不理解の中で信念を貫くということです。大切なお子様を預かる幼稚園・学校は、極めて保守的な世界であり、新しい教育を実現する為には艱難辛苦を乗り越えて、初めて到達するわけです。現在では、遠くは岡崎から岐阜まで通われる方もあるそうです。お子様の教育は最も大事なことです。尊敬できる教育者のもとで、お子様を育てて頂きたいと思います。

矢橋林業株式会社
代表取締役社長 矢橋龍宜



人と同じでなくていい、
人は皆違うからこそステキ

1



2



3



4



5



6

日本の教育を岐阜から変えるサニーサイドインターナショナルスクールの理念に共感し、小学部校長として携わっています。テクノロジーの発展で急速に社会が変わる中、自立した学習者として自分の想いを人生で実現できる子どもたち、グローバルに活躍できる子どもたちの成長を見守っています。



小学部校長
庄司真史



7



学校法人渡辺学園 サニーサイドインターナショナルスクール

〒501-3101 岐阜県 岐阜市岩井 4-10-25 TEL.058-241-1000 <http://www.sunnyside-international.jp>

Vietnam Art

ベトナムの技術力

漆 絵

チャインソンマイ＝漆絵

tranh sơn mài



現在、ベトナム ハノイを中心に活躍している画家 レー・バン・ティン氏。
彼は卵の殻と貝殻を使った漆絵を描いている。この彼の作品を見ていると、様々な
思いが伝わって来る。
彼の独特なスタイルは、とても真似できるとは思えない程の技法である。
この卵の殻と貝殻を使った漆絵は、「白い漆絵」とも呼ばれているが、この作品は
日本の家にもとても良く合う。



画家 レー・バン・ティン
Lê Văn Thìn

1952年生まれ
ベトナム ハノイ市在住
1981年 ベトナム美術大学卒業
ベトナム美術協会会員
ハノイ公開大学 工業デザイン学部講師

これまでに出演した展示会
フィリップモリスアジア1988,1999,2000
パリインターナショナルアートフェア2005
北京インターナショナルアートビエンナーレ2010
ソウルインターナショナルアートフェア2015
その他ベトナムでのアート展に多数出演

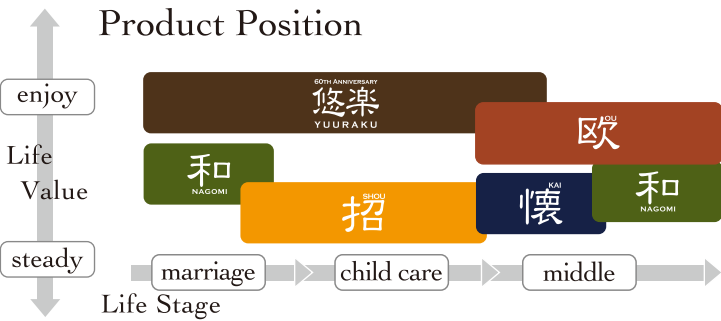
ベトナム国立美術館をはじめ、イギリス、
フランス、アメリカ、香港、中国、日本など
数多くの国で彼の作品は所蔵されている



2017年12月ハノイ国立博物館にて展覧会開催



矢橋の家「悠楽」モデルハウス

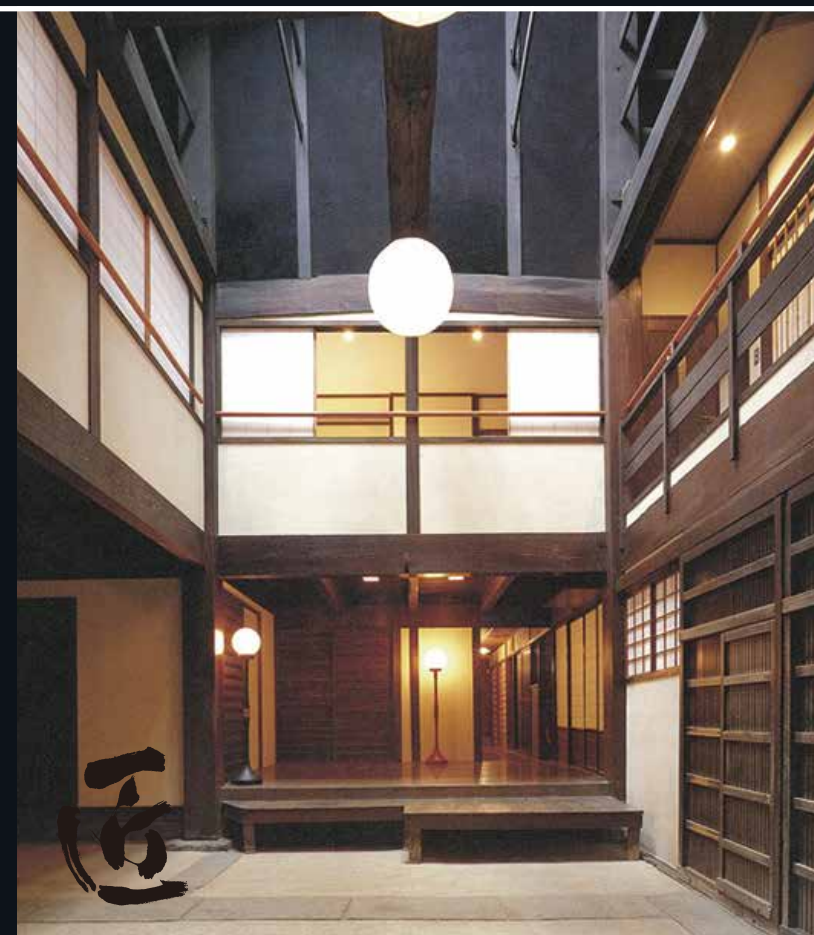


矢橋の家の理念

人が住むべき緑豊かな心休まる良い環境に
自然素材を活かした日本の伝統を受け継ぐ家に住まう。
日本の原風景を取り戻し、心豊かな暮らしができる住環境をつくる。

- 矢橋の家のこだわり
- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1 安全 | 2 安心 | 3 本物 | 4 快適 | 5 家事 | 6 収納 | 7 子育 | 8 趣味 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|





麗しき住環境の創造 ～Residence series～

Residence Policy

現在、一般的に家を建てるフローは完成した家の見学から始まるケースが多いのではないかと思います。家はある場所の、ある地盤強度の上に建っているという事を忘れがちです。つまり、どこに建てるのか？はむしろ最も重要な事なのと言えます。まず、安心、安全。

次に緑豊かな環境があり、出来るだけ便利という順番で考えるべき事だと思います。

たとえ建替えを検討していたとしても、まず今の場所が安心、安全な場所であるのかを考えてみるべきなのです。そして住んでみたいと思えるような場所をイメージすべきだと思います。

我々は「心豊かな暮らし」への第一歩は、ここから住んでみたいと思って頂けるような場所を見つけ出し、創造できるのかです。安心安全であり、美しい風景があり、将来出来るであろう「心の通じ合う」コミュニティが想像できるような場所をご提供しなければならないと考えております。遠くから我が家を見ると緑の木々に囲まれた一つの邸宅(Residence)のように見える。そのような街を作りたいと思っています。そこにお住まいになる方々は「心豊かなコミュニティ」が自然と醸成されていく、そんな街を理想としています。

土地を選び、「心豊かな暮らし」という理想の暮らしが出来る場所を、住宅のモデルハウスを造るように、単に土地分割ではない、麗しき場所(土地)を造り上げるポリシーを持たなければならないと思っています。



RESIDENCE HIRUI IV OU

再生という選択 リノベーション「甦」



戸建・マンション・店舗などのリノベーション承ります



甦^{SO}



つながるコミュニケーション

視界が広がり、ご近所同士コミュニケーションが取り易い動線を確保。つながりが感じられ、円を描くようなコミュニティが生まれる



お隣と共有する木々

プライバシーを確保しながらも、できるだけオープンな庭をつくることにより、お互いに緑を共有できる



共用駐車場

玄関先の緑が確保しやすいように、独立した駐車スペースを用意。もう一台停めたい時や、来客用の駐車スペースとしても活用できる



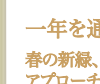
街のエントランス

人々が集う麗しき街の入口は、緑で覆われている。道路との高低差をつけることにより街全体に変化をもたらす奥行きを出している



ゆるやかなカーブの道

道がゆるやかにカーブしているため、スピードが出にくく抜け道にもなりにくいため安全



一年を通して美しいお庭

春の新緑、夏の木陰、秋の紅葉、冬の木立。アプローチの花壇には季節を彩る草花たち... 一邸ずつお庭のカレンダーを作成し、季節毎に変化する美しいお庭をご提案している



自然樹形が美しい山木

個性豊かな枝ぶりが楽しめる山木を取り入れることにより、街に自然の雰囲気をつくりだす



谷木因(五)

うみゆり連載集 中山道赤坂つれづれの記 故清水 春一

貞享戊辰 試筆

元日や 常に見る子の うつくしき

歳暮

年の夜や 橋杭たそと 見て行きし

この句は、今から恰度三百年昔の貞享五年（一六八八）のもので、この年は九月に元禄と改元になっています。たまたま本年（一九八八）秋十月には、日本俳文学会の大会が「芭蕉奥の細道三百年記念」と銘打ち、大垣市で開催する準備が進められていると聞きました。それは芭蕉と木因の因縁が基になって俳文学が盛んになったのを記念して関係者の方々が、特に会場を大垣へもってこられるのだということで、意義ある催しとなることでしょう。

さて、この句の所載があるのは、木因の「歳旦帳」などを後世の人が整理、編集したものであるとと推察されるもので、表紙に「おきなくさ」と題がつけられ、左下に「麦里」と署名されています。この人物が誰なのか、まだわかりませんが、木因の末裔に当たる茅ヶ崎市在住の山下つなさんから、大垣市へ寄贈された木因関係俳諧史料のうちの一点です。また、大垣市青木町の安田学石さんご所蔵の谷木因懐紙「芝尺宛書翰」

には、赤坂虚空蔵会に、

肌ぬいで います仁王や 小六月 雪の花

の一句が、岐阜市岩崎や美濃市大矢田での句とともに記されていて、赤坂虚空蔵に参詣し、仁王門の金剛力士像を詠じた句に、木因の詩情が窺われて何となく親近感が湧いてくるようです。

赤坂苗字八人衆の家系

先に紹介したように、谷木因が寄進した金生山の丁石地藏脈は、虚空蔵さん（明星輪寺）へお参りする参道の道しるべとして、山麓の赤坂の町から山道を二丁目、二丁目と数えて十二丁目まで、二丁ごとに建立されたものです。これは、正面石仏の右肩に丁目の数字が刻まれており、石の厚みの両側面に「大垣舟町」と「谷九太夫」の文字が彫刻されていますが、判読し難いので、臼井千吉氏の^{しゅく}手拓を借用し、参考に供することができました。

信仰心の厚い木因は、祖父弥兵衛、伝左衛門、頼母介ら三人兄弟が仲良く、赤坂の正福

寺や東光寺へ寄進しているので、それにならったようです。別表谷家系図でみられるように、木因の祖先は赤坂に住んでいて、本家は京都府の丹波山家^{やまが}の領主となり、一万石余の大名でした。

別家した谷伝左衛門^{たのものがすけ}や頼母介は赤坂に住み、曾根城主西尾豊後守光教の家臣となっていたるほか、それらの人々の先々に分家した谷弥一右衛門の父田中才兵衛、谷二郎兵衛などは江戸時代大垣藩に地侍として特別待遇をうけたり、中山道赤坂宿の町役人をつとめます。ここで谷家の人々は池尻城主飯沼家、および長松城主竹中家をはじめ嵯峨源氏の末裔という矢橋家など、赤坂宿の苗字八人衆と呼ばれた名門の流れを汲む家系と縁結びをして、互いに家門の誇りを守り相扶け合って赤坂宿の維持に携わり、封建社会に生きていたのです。

そうした時代背景の中で、赤坂に大きな愛瘤を感じていたであろう木因は、大垣舟町の美濃路と水門川が交差する大垣十萬石の城下町の表玄関口である舟町港を舞台にして、舟問屋を経営し、水陸交通の重要拠点を支配

し、大いに繁昌しました。しかし四十二歳のとき隠居して、八十歳で亡くなるまで悠々自適の生涯を送りました。
この間の人生が文人としての業績を遺した時期であり、後世にも高く評価されています。また、天下の俳聖松尾芭蕉との師弟関係を越えた交友とともに、文学的評価も見直されてきています。

谷家家系図



木因が寄進した
丁石道しるべ地藏尊の拓本